

ACCESS+

協生環境×情報アクセシビリティ

誰もが学べる読書とWEBのキャンパスづくり

本ACCESS+プロジェクトは、情報にアクセシビリティというプラスの価値を付加することで、慶應義塾のすべての構成員が情報にアクセスできる環境を整備することを目的とします。障害のある当事者および専門家と連携して実践的な情報アクセシビリティを推進しつつ、アクセシビリティの理念を体験的・共感的に理解します。参加者は読書アクセシビリティユニットとWEBアクセシビリティユニットに分かれ、それぞれの専門分野においてワークショップやフィールドワークを通じた課題解決型の実践を行います。なお、本ACCESS+プロジェクトに参加できるのは、原則として、慶應義塾大学の学部生・大学院生・教職員です。

1. 事前研修【アクセシビリティの理念の理解】

障害平等研修（Disability Equality Training：DET）を受講します。

2. 実施準備【調査と実践に向けた基礎学習】

- 読書アクセシビリティユニットでは、視覚障害者等の読書環境の現状を理解し、資料のテキストデータ化・音声化の手法、ならびにアクセシブルな閲覧アプリ開発における技術的・倫理的配慮を学びます。
- WEBアクセシビリティユニットでは、アクセシビリティの国際的ガイドライン（WCAG）や支援技術（スクリーンリーダー等）の使用法、実際のWebサイト評価手法について学びます。

3. ワークショップ【読書・Webアクセシビリティ向上の実践】

- 読書アクセシビリティユニット：慶應義塾大学図書館の蔵書を対象に、アクセシブルな形式（テキストデータ化・音声化等）への変換作業を体験的に学ぶワークショップを実施します。変換後の資料を国立国会図書館に登録する手続きについても学び、読書バリアフリー環境の整備に寄与します。また、閲覧用アプリの開発・改良の事例をもとに、PDCAサイクルに基づく設計・評価・改善プロセスを体験的に理解します。
- WEBアクセシビリティユニット：学内の公式Webサイトを対象にを行い、障害のある当事者とともにアクセシビリティチェックをします。評価結果に基づき、JIS規格やWCAGに準拠した改善案を考案し、よりアクセシブルなWebサイトのあり方について提案するワークショップを行います。

4. 成果の発信【報告会の開催】

「2025年度 協生環境推進ウィーク」において活動報告セッションを開催し、学内外に向けて成果と課題意識を発信します。また、提案をまとめた報告は、大学の関連部門（図書館、広報室、ITセンター等）に提出し、具体的な改善につなげていきます。

<参加希望登録> **2025年7月31日**までに以下のURLから登録をお願いします。

<https://psylab.hc.keio.ac.jp/project/access-plus/>

